

# ふれあい

杉山民謡会 会報



NO.32

# 新年あけましておめでとぅございます。

昨年は、杉山民謡会発表会、そして初めての大民謡まつり(キッズ支部)への参加、各支部毎の行事など大忙しの一年でしたが皆様のおかげで今年も無事に新しい年を迎える事が出来ました。

さて、私にとって一番に残った事は、秋の林中の芸能祭に行った時のことです。着替えを済ませホールに向かう途中「栄子ちゃん」と呼び止められたのが大先輩の荒木さんでした。手を握りながら二人で、いろいろ話をした後、私はステージへ。

荒木さんは客席から応援。その荒木さんに声をかけ、ステージに上がって頂き、会場のお客様には、東京の国技館全国大会出場など荒木さんのプロフィールを説明した後、サプライズで「越中おわら節」を唄って頂きました。

久々の唄声でしたがさすがにお上手で心が癒され嬉しくなりました。

話は前後しますが、私が林中公民館に行く事になったきっかけが荒木さんでした。荒木さんが民謡教室を始められ、初代・杉山先生が指導者として通われ、現在私が引き継がせて頂いています。

私は民謡を通じて色々な方々との出会い

があります。

出会いには、嬉しい出会いの反面、悲しい別れもあります。

平井さん、平嶋さんとは、悲しい別れとなつてしまいました。

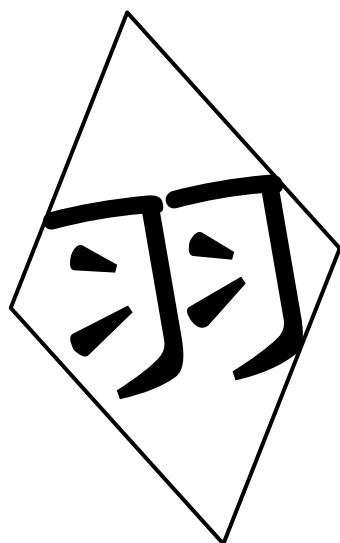
心からご冥福をお祈り致します。

今後、益々人と人とのつながりを大切にしていきたい「会」全体の事は、もちろん

若い世代の子達にもっともっとのびのび羽を広げさせてあげられる様な稽古場にしたいと強く思っております。

今年も、より一層皆様のご協力を、心よりお願い申し上げます。年頭の挨拶とさせていただきます。

二代目 杉山貞悦



人と人との

つながりを、大切にし

若い世代の子達には、

のびのび羽を広げさせて

あげられる稽古場にしたい。

二代目 杉山貞悦



# 師走の候となる

一年のサイクルが本当に早く感じているのは私だけだろうか。

今年も大きな災害が日本列島を襲い多くの方々が被災し、未だに復興にまで至らないところも有り心が痛む。

一日でも早い復興を願うものである。

さて、今年の発表会のことであるが、企画の素晴らしさは他には類の無い舞台で、沢山のお客様から感動したと聞いた。最高の舞台と評価することが出来たのではないか。

二代目先生が就任時にお話しされた、温故知新（ふるきをあたためて 新しきを知る）のごとく、この舞台はまさに民謡と洋楽の融合であった。

二代目先生のパワーのすごさと、子供たちの大きな成長がこの実現に結びついたのであり、これに呼応するかのごとく、大人の会員一人ひとりが精一杯努力した結果から生まれたものだと思う。（もちろん、三味線や踊りで応援していただいた事は外せない）また、キッズ会員の保護者のお力を借りての受付は、一流ホテルの受付の如くにキッチリとして大変高感度だったと聞いた。（感謝）

話は変わるが、会の組織についての思いを寄せてみる。

元会長の川野さんが以前、当会の会長職について「主宰が居るのに会長職が必要か」とお話しされていた事がある。

当会は、主宰による指導体制が全てでありまた、主宰は会の代表者でもあると。

つまり、会長は要らないが置かなら組織上だけにしておけばよいものだと。

私は、会社や青年団などという組織でのみ仕事をして今に至った。身体中に組織人間というものが浸み付いていて、「会」という組織には会長以下の役職が有る事は当たり前前だとの固定概念で物事を見ていたのだと今振り返ると思える。

会員の高齢化が益々進みお世話をする役員も限られた人になって来て、その人も減って来ているのが現状である。そんな中で、役員体制を維持することは大変難しくなる。このことから、そろそろ組織を見直す時期にあると思うが如何に・・・

終わりになるが、辛く悲しい会員とのお別れがあった。

平井さん（3月）、平嶋さん（11月）名取の両名が病気で亡くなったこと。

深い悲しみと、大きな無念を抱かずにはおられない。

人生寿命と言ってしまうばそれまでだが、

二人にはもっともっと生きていて欲しかった。唄って欲しかった。あらためてご冥福をお祈りする。（合掌）

来年の干支は「酉」である。

会員と会がさらに前進し大きく羽ばたいて行くことを願うものである。

杉山 哲明



# 継続は、力なり

はばたき支部 上田昭夫

私は、家の掃除と趣味である民謡の練習を日課としています。

私が掃除を始めたのは、「一に掃除、二に笑顔、三、四元気でおかげさま」という福井市大安禅寺の住職の話を聴いてからです。家の掃除をすることで自らの心もきれいにする。すると笑顔が生まれ元気に過ごせるということだと捉えました。

毎日続けることで我ながら上手く掃除が出来るようになり、清々しい気持ちで一日を始められるようになりました。

三十五年来続けている民謡ですが、これはどれだけ練習しても中々上手くはなりません。残念ながら、私には天性のものは備わっておりませんので、努力することしかなないと日々、歳の中で唄い込んでおります。しつかり腹に力を入れて大きな声を出すことが健康につながり、歌詞を一生懸命に覚えようと頭を使うことで認知症の予防になると考えています。

先日の発表会では大勢のお客様の前で思い切り唄うことが出来、たくさんの拍手をいただき大変嬉しかったです。

見ず知らずの方から「また、最上川船唄唄ってくれよ！」と声を掛けられた時には本当に嬉しくて長く続けてきてよかったです心から思いました。

“継続は、笑顔と力なり”

これからも、きれいな心で好きな唄をずっと唄っていきたいと思っています。

上田昭夫





# 林中じよんがら保存・伝承について

古くから「じよんがら」は各地で唄い踊られていた。特に、この地で有名な「柏野じよんがら」「一木じよんがら」「野々市じよんがら」があるが、林中地区でも古くから各町内毎に盆踊りが開かれ『炭坑節・越中おわら節・林中じよんがら』がセットで婦人会や青年団員を中心に踊りの輪が大きく広がり盛大に開催されていた。その後、(バブル頃から)町内の盆踊りも姿を消し、代わって現在の地区主催による「はやしなかな納涼夏まつり」に受け継がれ、今日に至っているがその頃に婦人会や青年団の組織が消滅し「林中じよんがら」の唄が流れると極端に踊り子が少なくなり寂しい限りとなっていた。(実際、林中機関紙で歌詞だけとなつて、節メロディーが消えてしまった民謡が沢山ある)何とかこのじよんがらも他の消滅した地域の唄民謡の二の舞とならない為に10年前、林中公民館長や地域の有職者、特に市教育長(同級生)に働きかけ強く訴えていた。当時、館長は杉山民謡会のOBだった事も手伝って、市への交渉も強く、杉山先生のCDを発行するに至る。だが中々、踊りへ周知に努めても地区民に受け入れられない。どうしたら浸透していくのか、さらに地域に根

ざす為に、一木、柏野両地区に出向き、保存への参考に伝承に努めることとなる。こうして、やっと平成23年7月に地域関係者が集い「林中じよんがら」の保存・伝承を確認し、その会の名称を『林中じよんがら踊るまい会』と命名し発表に至った。その甲斐あつて、昨年(平成27年)「はやしなかな納涼夏まつり」のスタートに凛々しい林中保育園児年長組が初めて五分間位、元気な掛声と共に踊る姿に、胸が熱くなる。

当時、館長らと、今は亡き長老の方に習った元唄をラジカセに録音し、杉山先生に、CDに遺した現在の唄調子に至った事、等々  
走馬灯のように次々と思ひ出し消えていった。

追伸  
平成29年2月26日(日)第38回 白山市松任民謡協会発表会に、  
林中こども園 年長組30名が虫送り太鼓と林中じよんがら踊りを特別出演する事になりました。



いな穂支部

小西信司

平成28年

## 杉山民謡会

### 発表会を終えて

やすらぎ支部 西村 昭

私は、民謡を始めて38年になりますが、年数ばかり重ねて、なかなか達しません。今回の発表会で私が選んだ曲は「鹿児島浜節」でした。土清水さんが教室にテープを持ってきてくれたのを聞き、前半は追分調後半が三味線音頭調と変化に富んだ曲のすばらしさに惚れぼれし、この曲を発表会に唄おうと決めました。

今回の発表会の企画も工夫をこらし、年長者の合間にはキッズのメンバーの唄があり、めりはりがあり素晴らしかったと思います。特に若手の方の発声は、のびのびと響き渡り杉山民謡会の将来が楽しみです。私は、前回の発表会では歌詞を忘れてあわててカンニングペーパーを見る始末でした。今回は歌詞をしっかりと覚えようと、何回も何回もテープを聞きました。家の中

では、思いっきり声を出せないで車に乗っている時に大きな声で練習をし、本番では、なんとか間違わず唄えましたので、自己満足ですがひと安心しました。家族も見に来てくれ、孫も手を振って応援してくれました。

懇親会では、来賓の皆さんも盛り上げて頂き、ビール、お酒が大変美味しく飲み、すばらしい一日を過ごせてよかったです。感謝です。

二年に一度の発表会も歳と共にだんだんと重荷に感じる事もあり、最近喉が、いがいがしくなりますが、声の大きさだけは今でも負けません。

うるさいと言われます(笑)

長年に亘り、好きなことを続けられることも先生のご指導、会員の皆様、家族の支えがあったからと心より感謝致します。

次回の発表会は、私が民謡を初めて40周年の節目となります。

それまでに、喉をうるおし、健康に気をつけ民謡を楽しんでいきたいと思えます。

声を腹から出すことが、私の健康のバロメーターと思っており、これからも、よろしくお願い致します。

## 朝、目がさめると

はばたき支部 吉本恵美子

今日一日が良い一日となるように

出来るだけの事をしようと思う年齢となりました。

曾孫も生まれ一緒に遊んでいる時間は楽しいです。

ある人から「あんたは幸福やね」と言われて自分の事は分からなかったのですが、好きな唄を唄って

友達もたくさん居て

身体に不自由なところが無い

ということに気づきました。

充分な事は出来ませんが、縁があつて色々な会のお世話を私の出来る範囲でさせて貰っています。

唄は、心を明るくします。

立派な師匠に恵まれて教室へ行くのが楽しいです。これから、いつまで続くか分かりませんが楽しく行けたら・・・  
と思う今日この頃です。



西本さん

小西さん

前川さん

西村さん

好きなことを続けられる喜び。心より感謝。

やすらぎ支部 西村 昭



山口さん

吉本さん

とめさん

好きな唄を唄って、友達もたくさんいて

はばたき支部 吉本恵美子



箕崎文音

今年は、小学校一年生になるので  
学校へ行くのを頑張りたいです。  
民謡では白峰かんこ踊りをもっと唄って  
シャンシャン馬道中も唄りたいです。

箕崎 仁

大漁唄い込みを、唄たいです。  
正直に言うともあまり黒田節は  
好きではありませんでした。  
今年は、大漁唄い込みを唄えるなら、  
うまくできるよう頑張りたいです。

山田凌羽

民謡を教わって間もないですが、  
大きい声で元気に唄う事を、心がけています。  
感動したことは百万石祭りの華絵巻、  
発表会、大民謡まつり等、  
大きな舞台に出れたことです。  
友達も沢山出来て一緒に声をかけ合っ  
ての練習は、本当に楽しいです。





山本菜々子

去年の十月に入ったばかりだったので、大会や発表会があつて、歌詞を覚えたり、唄って練習したりお姉さんたちの唄を聞いて練習したりしました。今年は、大会で賞をもらえるように沢山練習したいです。



山本日菜子

たくさんの方のまえでうたうのは、きんちょうしたけれど、がんばってうたえました。ことしもおねえさんとれんしゅうしたいです。

中田詩織

昨年は、太鼓や大民謡まつりなど新しい事に挑戦した一年でした。今年も、もっと新しい事に挑戦していきたいと思えます。



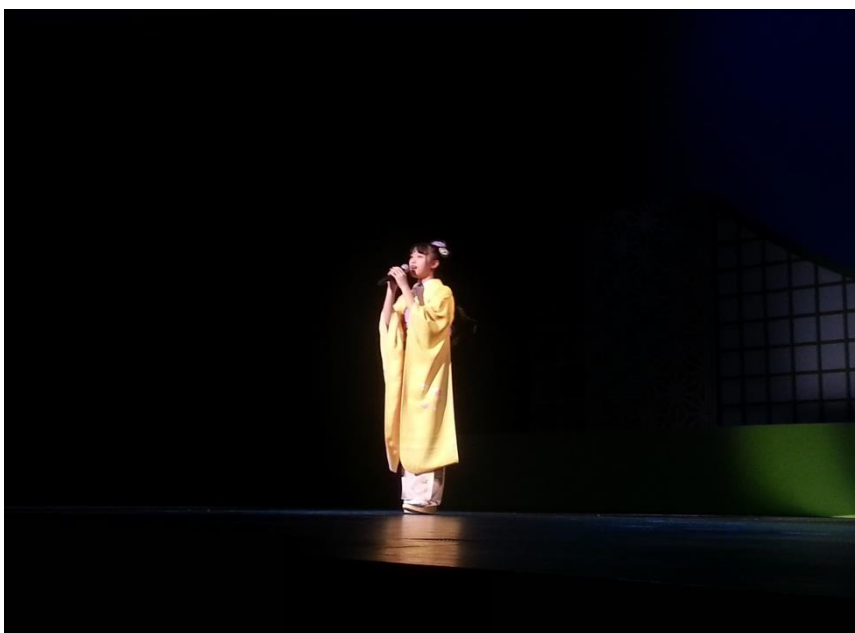
中田恵里

昨年は全国大会に出場する事ができ、貴重な体験が出来ました。今年も沢山練習を重ね挑戦していきたいと思っております。



昨年は、発表会では「津軽あいや節」大民謡祭では、「津軽じょんがら節」と今まで余り唄った事がなかった『津軽』に挑戦でき、すごく楽しかったです。まだ唄ったことのない唄が沢山あるので挑戦してみたいです。又、今年は大学受験を控えているので勉強も唄も両立出来るよう頑張ります。

八野日香



西房亜美

私は、昨年からコンクールでは一般の部門の参加になりました。最初は、大人の人と同じなので緊張していたけど、一年を振り返ってみるとたくさん賞をとれて、とても嬉しく思っています。

「麦屋節」のコンクールでは優勝を頂く事ができ、今年の六月にNHKホールに行けることになってとても嬉しいです。でも、ひとつだけ心残りなのは、昨年の大民謡祭です。私は、その麦屋節で出演の予定だったのですが、体調を崩してしまい入院しました。一年を締めくくる大民謡祭を、とても楽しみにしていたのに悔しいです。

『今年こそは』と、思っています。



今年は、昨年以上に楽しく唄いたいです。でも、学業も怠らず。

西房 唯

今年も、色々な事に挑戦していききたいです。  
勉強や部活と両立できるように  
頑張りたいです。

中村紗貴



中央支部 小崎妃登美



### 【編集後記】

明けましておめでとうございます。  
年齢と共に、希望と挑戦という言葉に重荷  
を感じ、何もかもが面倒くさくなる。  
老いるとは、こういうことなのだろうか  
「モチベーションを維持するには」  
「テンションを上げるには」  
新しい年を迎えるたびに悩む。  
何か、自分にとって励みになることを探す  
が、結局答えが見つからず、逃げの「ある  
がままに」へ。

「子供叱るな、来た道だもの」

年寄り笑うな、行く道だもの」

今年も、老若男女お互  
い、思いやりと暖かい目で二代目・杉山民  
謡会が歩んでいけるよう努めましょう。  
鳥寿「長寿。平井さん、平嶋さんの分まで  
長生きしましょうね。」

「本当にありがとうございました。」

平成28年4月から、いな穂支部の皆さん  
の教室に仲間入りさせて頂きました。  
自分の発表会の唄はもちろん皆さんの唄  
の太鼓も練習させて頂き、自信を持って本  
番に出る事が出来ました。  
あと、はばたき支部の皆さんには、野々市  
市民謡協会の発表会で呼んで頂き信頼に  
応える様に頑張らせてもらってます。  
その様なことで発表会は、いつもとはまた  
違う感じでとても楽しむ事が出来ました。  
まだまだ私には足りない事だらけで、  
これから改善出来るか分かりませんが  
これからも皆さんの信頼に  
答えられるように頑張ります。







2016.思い出





2016.

思い出



2016.

思い出







2016.  
思い出

